

| | | | |
|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|-----------------------------------------------------------------|
| 1. 科目名 (単位数) | 暮らしと経済 (2 単位) | 3. 科目番号 | SBMP1118 |
| 2. 授業担当教員 | 埜本 一雄 | | |
| 4. 授業形態 | 講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション(学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等)を伴ったものにする。 | 5. 開講学期 | 春期 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | 今後、開発経済や金融論を履修することで理解度が高まると考えられる。 | | |
| 7. 講義概要 | 日常、テレビや新聞で見聞きする、我々の身近な生活を取り巻く経済問題を、経済学的な観点から考察する。またそれらの経済問題を題材にして、経済学的なものの考え方を身につける。経済問題や経済学というと何かとつきにくく、縁遠い感覚を覚えるかもしれないが、実際には、意外とシンプルで、いったん身につけてしまうと、今後の社会生活を営んで行く中でも非常に便利なツールとなることがわかる。この講義を通じて、その生きていく上で有効なツールとしての経済学的な考え方が自然と身につくことを目指す。また、これまででなんとなく気になっていたにも関わらず未理解だった経済問題に整理をつけていくことを目指す。今回は日本経済を中心に学習する。 | | |
| 8. 学習目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 現在、日本経済でどのようなことが起こり、問題になっているかを認識する。 2. 現在の日本を取り巻く経済問題を経済学の枠組みでとらえ直す。 3. 経済学(ミクロ経済学、マクロ経済学)の基本的な考え方を身につける。 4. 数式やグラフを通じて物事を整理するという習慣を身につける。 5. 今後、日本や世界で展開する経済問題に関心がもてるようにする。 | | |
| 9. アサイメント(宿題)及びレポート課題 | 15回の講義のうち、2回、暮らしと経済(日本経済)に関わる課題を出す予定。 | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | 【教科書】 小峰隆夫・村田啓子著『最新日本経済入門 第6版』日本評論社、2020年。 【参考書】 戸堂康之著『経済学って何だろう：現実の社会問題から学ぶ経済学入門』新世社、2023年。 | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | ○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学に関する基礎的・基本的事項を理解し説明できる。 2. 身近な暮らしにおいて経済学的な考え方ができる。 ○評定の方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加度 50% 2. 課題レポート 30% 3. 小テスト 20% なお、単位認定には学則で定められた単位取得の条件(3/4以上の出席)を満たすことが必要である。 | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | ・社会人として生きていく中で、あるいは社会福祉施設や一般企業で働く場合も、経済、特にわが国の経済がどういう状況にあるのかを理解することは、とても重要です。個人の幸福追求にあたっては、施設経営の成功のためにも、「暮らしと経済」を学ぶ意味はそこにあります。 ・この授業では、ミクロ経済学・マクロ経済学の基本的な考え方の上で、重要で身近な経済学的論点、特に学生諸君の日常あるいは将来に関わるものについて学習し、自分なりに経済を読み理解する力を身につけていただきます。 | | |
| 13. オフィスアワー | 授業中に指示します。 | | |
| 14. 授業展開及び授業内容 | | | |
| 講義日程 | 授業内容 | 学習課題 | |
| 第1回 | ガイダンス、日本経済と経済の基本 | 事前学習 | シラバスの内容を基に、学習内容の全体像をあらかじめ理解しておく。 |
| | | 事後学習 | 日本経済の概況は把握できたか確認する。 |
| 第2回 | 日本経済の全体像 | 事前学習 | 「第1章日本経済の全体像」を読み、日本経済の現状についてあらかじめ理解しておく。 |
| | | 事後学習 | GDP等の意味とそれはどう計算するか確認する。 |
| 第3回 | 戦後日本の経済成長 | 事前学習 | 「第2章戦後日本の経済成長」を読み、高度成長の要因とマイナス面についてあらかじめ理解しておく。 |
| | | 事後学習 | 日本の高度成長の特徴を整理する。 |
| 第4回 | 景気循環の姿とそのとらえ方 | 事前学習 | 「第3章景気循環の姿とそのとらえ方」を読み、景気循環の意味についてあらかじめ理解しておく。 |
| | | 事後学習 | 景気の変動を表す諸指標を整理する。 |
| 第5回 | 雇用の変動と日本型雇用慣行の行方 | 事前学習 | 「第4章雇用の変動と日本型雇用慣行の行方」を読み、自分の将来の雇用の姿についてあらかじめ理解しておく。 |
| | | 事後学習 | 自分の将来に関連付けて、わが国の雇用慣行がどのように変化するか、整理する。与えられた課題について、レポートを作成して提出する。 |
| 第6回 | 産業構造の変化と日本型企业経営の行方 | 事前学習 | 「第5章産業構造の変化と日本型企业経営の行方」を読み、日本型企业経営の内容について |

| | | | |
|------|---------------|------|-------------------------------------------------------------------|
| | | | てあらかじめ理解しておく。 |
| | | 事後学習 | 日本型経営がどのように変化していくのか、整理する。 |
| 第7回 | 物価の変動とデフレ問題 | 事前学習 | 「第6章物価の変動とデフレ問題」を読み、デフレとは何かについてあらかじめ理解しておく。 |
| | | 事後学習 | 今の日本が置かれているデフレの状況を整理する。 |
| 第8回 | 貿易と国際収支の姿 | 事前学習 | 「第7章貿易と国際収支」の姿を読み、わが国の貿易の状況についてあらかじめ理解しておく。 |
| | | 事後学習 | 今後の日本の貿易がどのように変化するか整理する。 |
| 第9回 | 円レートの変動と日本経済 | 事前学習 | 「第8章円レートの変動と日本経済」を読み、円レートの変動状況についてあらかじめ理解しておく。 |
| | | 事後学習 | 円レートの変動が自分の生活にどのような影響を与えているのか整理する。 |
| 第10回 | グローバル化の中の日本経済 | 事前学習 | 「第9章グローバル化の中の日本経済」を読み、グローバル化の状況についてあらかじめ理解しておく。 |
| | | 事後学習 | 身近なグローバル化のメリット・デメリットについて整理する。与えられた課題について、レポートを作成して提出する。 |
| 第11回 | 財政をめぐる諸問題 | 事前学習 | 「第10章財政をめぐる諸問題」を読み、わが国の財政状況についてあらかじめ理解しておく。 |
| | | 事後学習 | 日本の財政状況と自分が将来進む道との関連について整理する。 |
| 第12回 | 経済の鍵を握る金融 | 事前学習 | 「第11章経済の鍵を握る金融」を読み、金融機能の重要性についてあらかじめ理解しておく。 |
| | | 事後学習 | 現在の金融情勢が続くと、自分の生活にどのような影響があるのか整理する。 |
| 第13回 | 改革が求められる社会保障 | 事前学習 | 「第13章改革が求められる社会保障」を読み、少子高齢化の状況についてあらかじめ理解しておく。 |
| | | 事後学習 | 少子高齢化が社会福祉に与える影響について整理する。 |
| 第14回 | 人口構造の変化と日本経済 | 事前学習 | 「第14章人口構造の変化と日本経済」を読み、人口構造の変化の状況についてあらかじめ理解しておく。 |
| | | 事後学習 | 人口構造の変化が与える影響を理解し、自分の将来に与える影響を整理する。与えられた課題について、レポートを作成して提出する。 |
| 第15回 | 総まとめと小テスト | 事前学習 | ここまでの学習内容をレビューして、理解が不十分であった部分を抽出し教員に質問できるようにする。小テストの範囲について復習しておく。 |
| | | 事後学習 | 日本経済について、この授業を通じて自分なりの知見がもてたか振り返る。 |
| | | | |